

## はじめに 乳がんを正しく理解して、主体的な患者になる

現在、日本で1年間に新しく乳がんにかかる人は7万人以上。また、日本女性の11人に1人が、一生のうちに乳がんになるというデータもあるように、乳がんはもはや身近な病気となりました。身近ではありますが、やはり簡単な病気ではありません。でも、世界的にも患者数が多いため、がんのなかでも研究活動が活発で、新しい治療法が次々と開発されている分野のひとつでもあります。

病気になれば、誰でも不安です。しかも、それが「がん」と名前のつく病気であれば、いつそう恐怖や絶望感もつかります。そうしたなかでも、「病気を知りたい」「なんとかしたい」と思つてこの本を手にとつたあなたは、すでに乳がんという困難を乗り越える最初の一步を踏み出しているのです。

この本の目的としては、まず、乳がんという病気を正しく理解していただきたいということです。病気に対する恐怖や、将来への不安の大部分は、相手を知らないことが原因です。そこで本書では、わかりやすい図解と平易な本文によって、乳がんという病気、

検査や診断、治療方針の選択、治療の実際、患者さんのQOL（生活の質）向上のヒントなどについてまとめました。

「わかりやすさ」には、患者さんに主体的に病気に取り組んでいただきたいという願いも込めました。前述のように乳がん研究は進んでおり、多くの治療法があります。そのなかからあなたにとってベストな治療を受けるには、患者さん自身が病気を冷静に理解した上で、現在の生活や今後の希望などを考え合わせて、医師と話し合い、治療方針を選ぶ必要があります。イラストや図表は、乳がんの基礎的な理解を助けてくれるものと思います。ぜひ、この本を活用し、あなた自身が主役として治療に取り組んでください。乳がんは、早期に発見されれば90パーセント以上「治るがん」です。完全に治癒しなくとも、病気と共存しながら自分らしく人生を歩んでいる方も大勢います。患者さんやその家族の方が、病気と前向きに取り組む際に、本書が役立つことを願ってやみません。

平成29年2月

順天堂大学医学部 乳腺・内分泌科 教授 齊藤 光江